

令和5年度第1回亀岡市環境基本計画推進会議

開催日時	令和5年8月3日(木) 午前10時～正午
開催場所	亀岡市役所1階市民ホール
出席者	田部委員、船越委員、芦刈委員(オンライン)、豊田委員、堀下委員、竹内委員、井上委員、内藤委員、吉田委員、橋委員、村山委員、中川委員、伊藤委員、法貴委員、山内幹事 (事務局3名)
欠席者	森委員、原田委員、川口委員、多胡委員
傍聴者数	2名
次第	協議事項 ・京都府地球温暖化防止活動推進連絡調整会議委員について ・亀岡市循環型社会推進審議会委員について ・第3次亀岡市環境基本計画の取組状況について 報告事項 ・令和4年度環境マネジメントシステム活動報告書について ・亀岡市地域再エネ導入ゾーニング事業について

1 委嘱状交付

2 会長選出・挨拶

3 協議事項

(1)京都府地球温暖化防止活動推進連絡調整会議委員について

《事務局から説明》

- ・村山委員を推薦することで一致

(2)亀岡市循環型社会推進審議会委員について

《事務局から説明》

- ・村山委員を推薦することで一致

(3)第3次亀岡市環境基本計画の取組状況について

《資料に沿って事務局から説明》

会長

第3次亀岡市環境基本計画において令和13年度の目標が設定されているが、この数値を見直すことは考えているか。

事務局

状況に応じて考えていくが、10年間の計画期間を見据え、概ね5年を区切りに見直しを検討したい。

会長

第3次亀岡市環境基本計画の取組状況報告書に前年度比を加えて欲しい

事務局

次回から見せ方を工夫していきたい。

4 報告事項

(1)令和4年度環境マネジメントシステム活動報告書について

《資料に沿って事務局から説明》

委員

し尿処理量について、市内施設はゼロとなっているが南丹市に委託して処理している分もあるのではないが。

事務局

南丹市に委託している分については、国の見解によると二酸化炭素排出量の算定外となるため、亀岡市内で処理したもののみが対象となる。

委員

説明については了解したが、亀岡市内から排出される量が減っているかなどを把握したいため、総量を教えて欲しい。

事務局

改めて処分量を調べ、共有させていただきたい。

委員

コロナの規制が緩和され、観光客が戻って経済活動も盛んになる中、エネルギー使用量も増えている。平成25年度と比較すると二酸化炭素排出量は減っているが、今後、削減が難し

い局面を迎えるのではないか。

事務局

先ほど説明した「環境マネジメントシステム活動報告書」では、一つの事業所として市役所が二酸化炭素をどのくらい排出しているかをまとめている。ご指摘をいただいた経済活動に伴う二酸化炭素の排出については、「亀岡市環境基本計画」や「かめおか脱炭素未来プラン」など市域全体を扱う計画に基づいてやっていくこととなるが、エネルギー転換や省エネ、吸収源などさまざまな方向から取り組む必要があると考えている。

委員

在宅勤務から市役所への出勤になるなど、必然的に電気使用量も通常に戻っているのではないか。再エネなどを導入したとしても、市役所として削減の余地があまりないと考えられるが、環境マネジメント上の目標は達成できるのか。

事務局

目標達成に向けて進めている。再エネ導入や分別拡大、EV 導入など市役所が率先して脱炭素に向けて動き、市域の意識醸成ができればと考えている。高い目標であると認識しているため、委員の皆様にもご意見いただきながら、よりよい方向に進めていきたい。

市役所の事務事業としての排出量は、電力使用量と廃プラスチック焼却量がかかなりの比率を占めている。公共施設への再エネ導入や市民にご協力いただくことになるが、ごみ処理の部分を重点的にやっていきたい。

委員

環境マネジメントシステムは市役所の活動と捉えてよいか。市役所のみの部分と市全体に関わる部分が分かりづらい。

事務局

市域全体の脱炭素計画については「かめおか脱炭素未来プラン」を策定したところだ。今回報告した環境マネジメントシステムは、事業所として市役所の二酸化炭素排出量を取り扱ったものになる。

会長

ごみの処理については、市民が出すごみを亀岡市の施設で処理するため、亀岡市役所の二酸化炭素排出量として出てくる。元をたどると市民の活動だが、市役所の施設の数値として取り込まれている。

事務局

施設単位で見た時に、焼却や埋め立て処分しているものが事業所としての市役所の数値に含まれている。

会長

基本的に市役所の中の話だが、ごみの部分では市民の話になるなど分かりにくい。

事務局

建物単位で考えていただければと思う。

委員

新しい機械に更新することで削減につながるのではないか。

事務局

省エネ機器の導入や LED 化を進めており、今後も省エネ機能を勘案しながら機器を更新することになると思う。

委員

話を整理したいが、温暖化防止に関して市町村は、市役所の活動を対象とした「事務事業編」と民間を含めて市全体を対象とした「区域施策編(かめおか脱炭素未来プラン)」の二つの計画を策定している。

亀岡市全体としては、2030年に温室効果ガス50%削減という大きな目標を掲げており、分野ごとに課題もたくさんあると考えられる。細分化された目標や指標を作っていかなければならないのではないか。そして、前年比なども見ながら問題を議論し、目標達成に向けて対策を練る必要があると思う。

事務局

「かめおか脱炭素未来プラン」の進行管理や指標の設定も整理し、提示していきたいと考えている。

(2) 亀岡市地域再エネ導入ゾーニング事業について

《資料に沿って事務局から説明》

委員

ゾーニングにあたり、太陽光発電をするのであれば、平らな場所に設置するのか、山奥の大規模な設備を作るのかなど一定の指標はあるのか。

事務局

亀岡市で最もポテンシャルがある再エネは太陽光発電となる。昨年度は採算性等を加味せずにポテンシャル調査を行ったため、今年度はより踏み込んだ調査を行うこととしている。市の課題解決につながる再エネとして、木質バイオマスなどの実現可能性も探っていきたい。

京都府の方でも昨年度、ゾーニングの方針を打ち出した。その中にはため池や市有地の活用がうたわれているため、亀岡市の地域性に合ったものを検討していきたい。

委員

亀岡市地域再エネ導入ゾーニング事業と本会議との関係を伺いたい。

事務局

さまざまな意見をいただきたく思っており、事務局として吸収し、事業に反映しながら進めていきたい。専門的な部分は委託していくため、いろんな角度から忌憚のない意見をお願いしたい。

委員

ゾーニングにあたり、災害が頻発する中、防災の観点は考えているのか。確かに亀岡市はため池が多いが、災害との関係などため池全体を見ながらゾーニングを検討していくべきではないか。

事務局

ご指摘のとおり亀岡市にはため池がたくさんあるため、ゾーニング候補に含めつつ、災害への配慮も合わせて検討していきたいと考えている。

委員

本会議だけではなく、関係する市民が集まっている市役所の会議体はいろいろあると思う。市としてゾーニング事業を進めていかれる中で、本会議の立場がまだ分かりづらい。

事務局

諮問というかたちではなく、いろいろなご意見を聞きたいと思っている。小会議というかたちもとりながら議論を重ねるとともに、地域へのヒアリングやアンケートなどで意見を吸収していきたいと考えている。ゾーニングを進める上でよりよい組織体についても合わせて検討していきたい。

委員

昨年度、「かめおか脱炭素未来プラン」の策定に際し議論した中では、太陽光とバイオマスが有力ということになった。太陽光を設置する場合、分野によって方法が異なるため、細かく事業化の可能性についても調査していただきたい。

京都府では今年から、駐車場の屋根への太陽光設置を推進している。ただ、事業所としては費用面などの課題もあるため、分野ごとに対策も練っていただきたい。

5 副会長挨拶

6 閉会

以上